

兵庫県医師連盟ニュース



index

2023 (第30号)

- 医師連盟委員長挨拶
- 令和5年統一地方選挙(兵庫県)結果
- 兵庫県医師連盟定時委員総会議決事項
- 兵庫県医師連盟と自由民主党兵庫県支部連合会との懇談会
- 自民党との県予算編成に対する要望の回答
- 議員対談 衆議院議員 関 芳弘氏
- 郡市医師連盟だより(神戸市医師連盟)

発行所 兵庫県医師連盟

〒651-8555 神戸市中央区磯上通6-1-11

Tel 078-265-2328

http://www.hyogo-ishirenmei.jp

編集責任者 八田 昌樹



兵庫県医師連盟
委員長 八田 昌樹

医師連盟委員長挨拶

疾患患者等を感染から守る対策が必要です。

2023年春の統一地方選挙の結果ですが、前半の兵庫県議会議員選挙では、兵庫県医師連盟推薦候補者28名の内、当選24名、落選4名、神戸市議会議員選挙では、連盟推薦候補者20名の内、当選17名、落選3名、県議選では、日本維新の会が、神戸、阪神間で多くの議席を獲得し、第二党に躍進しました。自民党は、第一党の座は守りましたが、議席数を減らしました。

新型コロナウイルス感染症との闘いも4年目になりました。委員の先生方には、発熱等診療・検査医療機関、ワクチン接種自宅及び高齢者施設での入院待機陽性者への往診事業、宿泊療養施設への出務等、県民のために献身的にご尽力いただき、心から感謝申し上げます。この3年間、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置などの行動制限、感染対策の定着、ワクチン接種治療薬の出現を経て、ようやく死亡率や重症化率が低下して、以前ほどの脅威がなくなってきました。そして、令和5年5月8日から新型コロナウイルス感染症は、感染症法上2類相当から5類に変更されました。コロナ特例の診療報酬は段階的に縮小し、コロナ治療薬以外の外来・検査費の公費負担は無くなり、5類になってもコロナウイルス自体の性質及び感染力は変わりません。軽症者が多いことは確かですが、高齢者や高齢者施設の入所者、基礎疾患のある人、透析患者、妊婦、精神

後半の伊丹市議会議員選挙では、兵庫県医師連盟推薦候補者4名の内、当選4名、西宮市議会議員選挙では、連盟推薦候補者6名の内、当選4名、落選2名、太子町議会議員選挙では、連盟推薦候補者1名が当選、姫路市長選挙では、連盟推薦候補者の現職で医師の清元氏が再選されました。明石市長選挙では、泉市長の後継者で市議の丸谷氏が当選し、芦屋市長選挙では、史上最年少となる26歳の高島氏が、現職の伊藤氏を破って初当選を果たしました。県議会、市議会共に勢力分布が変わりましたが、医療界の意見、要望を実現するために引き続き連盟活動を行っていきたく存じます。

令和5年統一地方選挙(兵庫県)結果

兵庫県議会議員 4月9日(日)

推薦候補者 28名 当選 24名
～当選された方々～

医師会名	推薦候補者名	党名・党派別
灘区	北浜 みどり	自由民主党
兵庫区	すが たけし	公明党
北区	おおつか 公彦	公明党
長田区	越田 浩矢	公明党
須磨区	伊藤 すくる	自由民主党
須磨区	しま山 清史	公明党
垂水区	吉岡 たけし	自由民主党
垂水区	黒田 一美	ひょうご県民連合
尼崎市	黒川 治	自由民主党
尼崎市	谷井 いさお	公明党
伊丹市	中田 慎也	自由民主党
川西市	北上 哲仁	無所属
西宮市	北川 泰寿	自由民主党
西宮市	竹尾 智枝	公明党
明石市	北口 寛人	自由民主党
三木市	村岡 真夕子	自由民主党
小野市・加東市	藤本 百男	自由民主党
加古川	岡 つよし	自由民主党
高砂市	山本 敏信	自由民主党
姫路市	水田 裕一郎	自由民主党
姫路市	戸井田 祐輔	自由民主党
姫路市	北野 実	自由民主党
佐用郡	長岡 壯壽	自由民主党
豊岡市	門間 雄司	無所属

本年4月に実施された令和5年統一地方選挙において、県医師連盟では各郡市医師連盟からの推薦を受けて各選挙での候補者推薦を行いました。

神戸市議会議員 4月9日(日)

推薦候補者 20名 当選 17名
～当選された方々～

医師会名	推薦候補者名	党名・党派別
東灘区	大野 陽平	自由民主党
東灘区	上島 寛弘	自由民主党
灘区	吉田 健吾	自由民主党
灘区	浅井 みか	自由民主党
中央区	かわなみ 忠和	自由民主党
兵庫区	すがの 吉記	公明党
兵庫区	平野 達司	自由民主党
北区	坊 やすなが	自由民主党
北区	五島 だいすけ	自由民主党
北区	うえなか 雅子	自由民主党
長田区	平井 まち子	自由民主党
長田区	坂口 有希子	公明党
須磨区	松本 しゅうじ	自由民主党
須磨区	むらの 誠一	自由民主党
垂水区	しらくに 高太郎	自由民主党
西区	山口 由美	自由民主党
西区	山下 てんせい	自由民主党

市町議会議員・市長 4月23日(日)

推薦候補者 12名 当選 10名
～当選された方々～

市町議会	推薦候補者名	党名・党派別
伊丹市議会	戸田 龍起	自由民主党
伊丹市議会	加藤 光博	自由民主党
伊丹市議会	杉 一	自由民主党
伊丹市議会	土井 秀勝	自由民主党
西宮市議会	大川原 成彦	公明党
西宮市議会	八木 米太郎	無所属
西宮市議会	山田 増人	公明党
西宮市議会	坂上 明	自由民主党
姫路市長	清元 秀泰	無所属
太子町議会	森田 哲夫	無所属

兵庫県医師連盟定時委員総会議決事項

(1) 4月9日(日)、兵庫県医師会館で開催し、「令和5年度事業計画」、「令和5年度予算」、「令和5年度会費賦課徴収」の3議案について、原案通り可決されました。

もって「国民皆保険制度の堅持」、「地域保健医療活動の強化」、「平等で安全な医療提供体制の確保」並びに「医療経営基盤の確立」等各種施策の実現のため政治活動を展開する。

一. 政治活動

① 県下首長・議員に対しての口

② 兵庫県議会議員との医療政策に関する意見交換会の開催

(医療政策勉強会等の開催)

1) ビー活動展開。県選出国会議員はマンツーマン方式による。

2) 郡市区医師連盟における地方自治体首長、選挙区県議会議員、市町議会議員へのロビー活動に対する支援。

三. 対内活動

医師連盟会員への医療政策の啓発とそれを表現させる為の政治活動への参画意識の昂揚を図る。

① 医師連盟若手会員の育成。

② 医療政策を政治に反映させる方策の検討。

(二面以下)

医師の政治力強化を図り、

① 県下首長・議員に対しての口

② 兵庫県議会議員との医療政策に関する意見交換会の開催

(二面以下)

**兵庫県医師連盟ホームページ
随時更新中**

医師連盟の主張や意見の広場、郡市区医師連盟の活動などを掲載しています。

兵庫県医師連盟

<http://www.hyogo-ishirenmei.jp>

(二面から)
四、各関係団体との連携強化
関係団体との強固な連携のもと、医療施策の実現化の為に政治活動を展開する。

- ① 日本医師連盟との連携
- ② 近畿各府県医師連盟（医師政治連盟）との連携
- ③ 兵庫県歯科医師連盟、兵庫県薬剤師連盟との連携
- ④ その他の関係団体との連携

(令和5年度会費賦課徴収)
一、会費の賦課額
令和5年度兵庫県医師連盟会費賦課額を次の通り定める。

会費賦課額
A会員（年額）3,500円
B会員（年額）1,000円

二、会費の徴収方法
兵庫県医師会会費等徴収規程及び同施行細則に準ずる。
(2) 令和5年6月18日(日)に兵庫県医師会館で開催し、令和4年度会務実績の報告、承認を受け、また「令和4年度収支決算」事案について、原案通り可決されました。

兵庫県医師連盟と自由民主党 兵庫県支部連合会との懇談会

兵庫県医師連盟常任執行委員 三浦 一樹

令和5年2月9日木曜日の午後4時から兵庫県医師会館6階会議室において、兵庫県医師連盟と自由民主党兵庫県支部連合会との懇談会が行われました。今回は各区（1～11区）より27名の県会議員に参加頂き、八田昌樹県医師連盟委員長、藤田孝夫県支部連合会幹事長の挨拶に続き懇談が始まりました。

まず初めに、この懇談会の名称を決めることとし、候補に挙がっていた「県民の医療と福祉を考える会」を正式名称として決定しました。今後は、この名称で年1回程度の懇談会を継続することで双方の意見が一致しました。

次に、橋本寛県医師連盟副委員長より新型コロナウイルス感染症の現状と今後の課題について、5月8日からの5類移行後の医療提供体制を中心に資料説明がありました。

その後、4月からの統一地方選挙に向けて参加議員から各区の情勢、選挙活動内容等を一人ずつ報告して頂きました。特に郡部においては、日本維新の会から出馬予定の立候補者が多いため、該当する区から立候補される自民党議員からは懸念の声を聞かされました。



橋本医師連盟副委員長



三浦医師連盟常任執行委員



藤田自民党県連幹事長



八田医師連盟委員長

自民党との 県予算編成に対する 要望の回答

つ市の市・揖保郡）、風早寿郎（宝塚市）、橋秀太郎（美方郡）、富山恵二（相生市）、長岡壯壽（赤穂市・赤穂郡・佐用郡）、永田秀一（南あわじ市）、春名哲夫（栗市）、藤田孝夫（養父市・朝来市）、山口晋平（たつの市・揖保郡）、山本敏信（高砂市）の11名、県医師連盟からは、八田昌樹委員長、橋本副委員長、三浦常任執行委員、大門常任執行委員、事務局2名が出席した。

回答

① 先天性サイトメガロウイルス感染症対策として、神戸大学等が行った厚生労働科学研究における「妊婦・新生児スクリーニング体制」等の研究における、最近の研究結果として、「効果的な妊婦CMV(サイトメガロウイルス)スクリーニング法が提案されている。

このスクリーニング法は、妊婦と新生児各々を対象としたスクリーニング検査で、新生児に

は聴覚検査を実施し、要再検となった場合に、生後3週間以内の新生児尿CMV核酸検査(保険適用)を実施することが提案されている。

先天性難聴の主な原因は、遺伝子の異常のほか、妊娠中のトキソプラズマ症やサイトメガロウイルス感染症、風疹などの感染症であるが、日本産婦人科学会の産科ガイドラインにおいても、聴覚スクリーニング検査を実施することが記載されている。

② 県医師会の「COVID-19罹患後症状サポートプロジェクト」において、罹患後症状の診療実態を把握し分析する中から、より適切な対応を示し、診療対応が可能な医療機関の確保を促進する取組みは、地域医療の充実に繋がるものと考えている。

県としては、県医師会とも連携し、対策のさらなる充実を図るため、令和4年度より研修会等への支援を行うほか、専用相談窓口を設置(令和4年7月)し、相談内容の分析等の情報を県医師会とも共有するなど、共同して取り組んでおり、今後も引き続きこれらの取組みを進めていく。

令和4年9月9日に自民党県議団との意見交換を行い、令和5年度県予算編成に対する最重要事項として、①新生児サイトメガロウイルス感染スクリーニングの導入、②COVID-19罹患後症状サポートプロジェクトの実施について、実現方を強く要望した事項について、令和5年3月15日(水)午後1時30分よりWeb会議にて、要望事項に対する回答も含めた意見交換が開催された。自民党県議団からは、大前はるよ(西宮市)、松井重樹(た



Web会議の様子

神戸大学における、全新生児の尿CMV核酸検査などによるスクリーニング法の研究への取組みは、厚生労働科学研究等の外部資金の選択肢もあることが



三浦常任執行委員・橋本副委員長・八田委員長と大門常任執行委員



寺下一弥執行委員(以下 寺下)
 本日は国政でのご多忙の中、兵庫県医師連盟のインタビューをお引き受けいただきありがとうございます。関芳弘先生は、昭和40年徳島県小松島市のお生まれで、関西学院大学経済学部を卒業後は現在の三井住友銀行に17年間勤務されました。英国ウェールズ経営大学院を修了されMBAを取得されています。政治家に転身されたからは、選挙区は兵庫3区(神戸市須磨区、垂水区)で、平成17年に衆議院議員に初当選され経済省副大臣、環境省副大臣を歴任され令和5年4月からは神戸国際大学経済学部客員教授も務めておられます。現在は、衆議院経済産業委員会筆頭理事をされており、その他卓球国会議員連盟、将棋国会議員連盟の事務局長も

関芳弘衆議院議員(以下 関)
 日本維新の会が一番大きな対戦相手なんです。日本維新の会が取った方針というのは、身を切る改革ということですね。これはいいのです。しかし予算が必要なものも切っているんですね。僕は改革って非常に重要だと思うんですが、必要以上にやりますと、そして成果を強調すると、それは一見国民受けはしますが、実際には行政の危機が起きるんだという心配はその時のポイントだったと思

います。大阪府の本来にされたことをしっかり見ていただいて、政策と結果をみて判断してほしいと思います。では何をやったかというところ、医療に関しては大阪公立の住吉病院と地域の中核病院をなくしました。加えて、医療関係の公務員を50%なくしたということ



関芳弘衆議院議員

で、コロナ感染症で全国平均では100万人ごとに大体5人ぐらい亡くなっている各県の平均値のところ、大阪が最悪で10人亡くなっているんです。大都市圏でも神戸については100万人あたり6〜7人ぐらいで抑え込んでいる状況で医師会の皆さんが頑張ってくれたといえます。この不測の事態が起こる時の準備というのは行政面で用意していなければいけないんです。必要以上だろうということ

で切ってしまうと、事態が起こった時に対応できなくて、結局自衛隊まで派遣してもらわなといけなくなるぐらいの地域の医療体制では対応できなかった。神戸は、阪神淡路大震災を1回経験していますから備えとということに対する行政の在り方は、何かあっても対応ができるだけのマンパワー体制は確保しようという考え方があったと思うんですね。実際に何が起るかわからない世の中において

いなんです。3年前に国会議員連盟の半導体戦略推進国会議員連盟が作られたのですが、私はその責任者としての事務局長も今もやっているんですね。今半導体のところにつきましても半導体って世界ナンバーワンの企業が台湾のTSMCという会社なんですけれど、日本の熊本に進出してもらいましたね。半導体の技術革新が進みGAA (Gate All Around) という立体型の半導体を作っています。こうなりますと必要な電気の量も何十分の一になり、処理できるデータ量も格段に上がってきますので、そういうふうな世界最先端技術をアメリカの企業なんかと一緒にやっています。その開発については、しっかりと予算確保してアメリカと共同しながらやっています、今力を入れてやっています。

寺下 現在、医療、介護関係の施設運営も、原油あるいは電気で代表される物価高あるいは従業員ベースアップのところでもありますが、医師会においても日々いろいろと政府をお願いをしています、なかなか今の状況だと難しいですね。
関 実際にガソリン価格においては通常1リッターあたり200円ぐらいなんです。去年の暮れ1リッターあたり40円の補助を与党2党で決めまして、



寺下一弥執行委員

関芳弘衆議院議員

リッター200円が160円になっていると思います。生活にしろ事業にしろ、全ての分野に影響のあるガソリン代についてはそういうふうな作業しよう、電気代、ガス代、ガソリン代というふうなところの部分に對しての補助を入れるようにしたい、というふうな予算を回していくことを考えています。
寺下 先生が政治家になられてこういう夢があったと、それに対してどれぐらいまで叶えてきているという印象でしょうか。
関 僕が一番初め、政治家を目指した際に、銀行マンとして経済分野における仕事に携わっていたものですから、政治家になっても日本の経済状況に関わってきました。企業の人たちが世界の経済の中の厳しい競争の中ですます厳しさが強くなると思いましたが、その中で勝っていきけるような応援をしていきたいという政治家として目標を持っているんですね。1990年には世界において日本の国際競争力は世界ナンバーワン、ナンバーワンといわれていたんですが、今30位までおちてきているんですね。一人当たりのGDPも一番高かった1990年頃と比べると世界第3位だったんですが、一人当たりのGDPも今はやっぱり30位ぐらい

で下がっていますね。世界のインターネット等によって情報ものすごく共有されやすくなり、技術におきましてもマネという情報共有もすごくされやすくなりました。この中にいて、日本が勝ち続けていくという環境づくりというふうな、模式的な情報があればそれ外していかないといけませんし、日本がずっとずっと前に進んでいるような体制環境づくりというのを、今、一生懸命取り組んでいるという感じですね。
寺下 先ほどの維新の話に戻りますけど、政党の政策だけで議員さんを選ぶというのは、ちょっと間違っているのではないかなと思いますし、私たちがその意見を託せる方に、是非とも国会でお仕事をしていた方がいいというのが願いではありますので、先生には本当に頑張ってくださいと思います。(四面にっ)



引退を表明された石川佳純さんが
5月13日来神された折の一枚

(三画から)

関 私は本当に田舎から出てきて、日本全体に影響を与えてみたいという夢を持って四国の小松島市の田舎の4万5千人ぐらいの町から出てきました。この前ゴールデンウィークに田舎に帰って、親と会ったり、その田舎の風景と見ると、そういうふうな気持ちで出てきたようなことを、やっぱり思い出しますよね。初心を忘れないようにすることが非常に大事だろうなって帰るときは思いますね。ただ人数が多い大都市圏での意見が強くあるというのでは多分ないんだろと思うし、その地域の事情にあった陳情を国に届けていくというのは非常に大事な役割です。今でも地元へは週末帰りますよね。毎週やっぱり帰ってね、いろんな方のお話を伺っています。非常に物価が上がって先ほど先生がおっしゃられましたように我々

補助金はつきましたけど、その補助金をつけても今までのような通常価格からするとまた高いところで止まっている現状の不満はものすごく大きいなど、物価が上がったからすぐそれに合わせて自分の給料も、なかなか企業経営の方からするとそんなに給料をあげられないし、微々たるぐらいしか給料も上がっていませんしね。コロナ禍ですって外に出られなかったり、営業も存分にはできなかったり、というふうなことで、世の中に対する不満がすごく高まってきているのが今の時期だと思います。この不満に対してそれを解決していくんだというふうなことの強い意思表示が与党にはいると思うんですね。そこに、今は特に重点を置いた活動を非常に短期的なところにも力を注ぎながらやっている、という状況だと思えます。これから頑張りたいと思います。全然マスクミミの人が表には報道はしてくれないんですが、例えば政府閣僚大臣、副大臣、政務官とかに入ったりすると、東日本大震災に対して国会議員は2割、給料から天引きされて、そちらに寄付が自動的にいくんですね。政府三役に入ると、東日本大震災に行くお金とは別に給料から更に2割が引かれて、世の中の困っているところにお金がさらに配られる。コロナ禍には全員だったんですけど、政府三役に入る

と、東日本大震災の分で4割くらいにまで減って、1ヶ月に振り込まれているお金が20万円台なんです。国会議員は文書交通費が毎月100万円振り込まれていると誰でも思っていると思うんですけど、20万円台だったんですよ。誰もそんなことを知らされてないんですね。一般企業の1〜2年生ぐらいの給料が振り込まれてくるのをみて『どうして』とかみさんに怒られているんですけど、どうしようもないですね。国会議員として国民の税金から給料をいただくので、急激に困って国家財政が急に回せないときには780人国会議員はいますから集めて渡しても、大きなお金まではなりませんけれど、そういうところについては表には出てませんが、しっかりと苦情も言わずに全国国会議員たちはやっていますかね。
寺下 それは全然知りませんでした。
関 そういうふうな困ったときはお互い様でみんなが助け合おうというふうなことを、どのようにな仕組み作りで、それが成し遂げていけるのか、こののを我々が考えないといけないことだと思っんです。

寺下 逆に先生の方から医師会活動とか医師会に対する何かこういうことを期待とか、こういうことやっていただけはないか、というのがありましたら。
関 あえて申し上げましたら、まずは3年間、コロナ禍のなかでとんでもない大変な苦勞を、医師会関係者の方々がしてくださったことを感謝申し上げたいと思います。ワクチン接種に対する応援から始まってですね、またお医者さんご自身がかかれないよう、スタッフの方がかかれないように最大の注意をしながら、こういう中でも、できるだけ患者さんに診療をされようという中で、本当にまずは御礼申し上げたいと思います。それぐらいのご苦勞をしていただいたということですね。今後またいつ新興の感染症が広がっていくかも分かりませんが、その時に国家としてはどういう体制をとって対処ができるようにしておくべきなのかというそのアドバイス、並びに共同での意見交換を、今落ち着いている時にこそやっておくべきと思いますので、その点のご協力をお願いできましたらと思います。

省の方にいろいろと要望しながら、医師会がうまく機能するようにならなければならないと思うんですけどね。
関 やっぱ社会って誰が何と言っても厚生委員はお医者さんであり、一般の国民であれ、議員であれ、行政であれ相互作用的に影響しあうスピークホルダーとして活動し、みんな協力し合っていくような社会を作っていくしかないわけですか。
寺下 本日はどうもありがとうございます。今後の閣議員のご活躍を期待しております。

郡市医師連盟だより

【神戸市医師連盟】

神戸市医師連盟の活動として、神戸市三師連盟と神戸市会与党議員団(自民・公明・こころべ市民連合)との懇談会を年一回7月に開催しています。今年4月に統一地方選挙がありましたので、選挙前の2月にも懇談会を開催しました。懇談会では区ごとに分かれてテーブルを囲み、地元選出の議員と区医師連盟委員との意見交換の場として、今回の統一地方選挙では、各区医師連盟から推薦があった候補者に対して、神戸市医師連盟も推薦いたしました。また、神戸市医師会が参画し主導している地域医療推進協議会(19団体)では、秋に与党と我々医師が目指す医療政策の実現に向けて議員団との懇談会と市民フォーラムを交互に開催しています。懇談会では各団体からの要望を取りまとめ、一致団結して議員団に強く申し入れを行っています。

一方、国政においては2022年7月10日投票の第26回参議院議員選挙で、日本医師連盟の推薦を受けて立候補された自見はなこ氏を支援するため、神戸市医師連盟内にプロジェクト委員会を立ち上げました。毎週火曜日の神戸市医師会理事会終了後に、神戸市医師連盟常任執行委員会を開催し、各区のサポーター名簿獲得数を公表し、情勢を確認しながら全体としての獲得数の上乗せを目指しました。
価値観が多様化し、個人主義が優位な近年において、比例代表の組織内候補であってもサポーター名簿の獲得をはじめとする支援活動は容易ではありません。しかし、職域代表候補者の獲得票数はその所属団体の力を示すといわれています。自見はなこ氏は昨年の選挙で、医療・介護・社会保障関係候補者の中でトップ当選を果たされました。本年5月に参議院本会議で可決・成立したかかりつけ医機能の制度整備などを盛り込んだら、本場に協力体制をしっかりと取らせていただけたらと思います。
寺下 本日はどうもありがとうございます。今後の閣議員のご活躍を期待しております。



懇談会会場

神戸市医師連盟委員長
堀本仁士